東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

第27回　日本頭頸部外科学会　特別企画
「私の手術修練とキャリアパス」

「広く見て，先を読み，前を向いて，人を治す手伝いをする」
～嚥下障害診療を通して～

上羽　瑠美

東京大学　耳鼻咽喉科・聴覚音声外科

私の略歴

- 2003 年　5月　医師国家試験合格
- 2003 年　5月　研修医 （東京大学　耳鼻咽喉科）

- 2005 年　4月　NTT東日本関東病院　耳鼻咽喉科
- 2007 年　4月　東京都立神経病院　神経耳科
- 2008 年　4月　亀田総合病院　耳鼻咽喉科

結婚

- 2010 年　9月　東京大学　耳鼻咽喉科　特任臨床医

- 2012 年　5月　Visiting researcher
  (Department of Pathology, University of Michigan)

- 2012 年 12月　東京大学　耳鼻咽喉科　助教
- 2017 年　1月　学位取得

私の略歴

- 2003 年　5月　医師国家試験合格
- 2003 年　5月　研修医（東京大学　耳鼻咽喉科）
- 2005 年　4月　NTT東日
- 2007 年　4月　東京
- 2008 年　4月　亀田
- 2010 年　9月　東京大
- 2012 年　5月　Visiting researcher
  (Department of Pathology, University of Michigan)
- 2012 年 12月　東京大学　耳鼻咽喉科　助教

医者は，人を治すのではない．

人を治す手伝いをするだけだ．

治すのは，本人の気力なんだ．

私の略歴

- 2003 年　5月　医師国家試験合格
- 2003 年　5月　研修医 （東京大学　耳鼻咽喉科）

気道疾患と嚥下診療に興味を持つ　⇒　専門を決定：**喉頭・気管・嚥下・音声**

- 2005 年　4月　NTT東日本関東病院　耳鼻咽喉科

- 2005 年　4月（3 - 4年目）　NTT東日本関東病院　耳鼻咽喉科
  - 3年目：**喉頭微細手術**（4月に一人きりで），**気管切開術**（助手は神経内科医）
    喉頭全摘術
  - 4年目：**咽喉頭食道摘出術**
    喉頭気管分離術（Separation）

和文論文初投稿

脳卒中センター嚥下チームを作る　⇒　嚥下機能評価（1人で300症例/年）

- 2007 年　4月（5年目）　東京都立神経病院　神経耳科
  - 5年目：**困難症例の気管切開術**（重症心身障害児・障害者：50症例以上/年）
    喉頭気管分離術（Diversion）＋気管食道吻合術
    両側声帯麻痺症例のファイバー下気管挿管
    多系統萎縮症のセルシン負荷試験による気道狭窄評価

初の国際学会発表

ALS，Parkinson D，MSAの声帯[illegible]診療録調査

- 2008 年　4月（6 - 8年目）
  - 6年目：**食道バルー**[illegible]
    粘膜下喉頭[illegible]
  - 7年目：**披裂軟骨内**[illegible]
    喉頭形成術（外傷[illegible]
    局麻下声門閉鎖術
  - 8[illegible]物）

取得

人を治す手伝いをするには，
本人のだけでなく
医者の気力も必要だ！！！

腕頭動脈瘻，座位での気管切開，輪状甲状間膜切開も経験

腹が空いては戦ができぬ！！！

人を治す手伝いをするには，
医者の体力も必要だ！！！

私にとっても，嚥下機能維持はとても重要・・・

上羽家の家事事情

	私	夫
掃除機	3	7
お風呂掃除	0	10
トイレ掃除	10	
	5	

人を治す手伝いをするには，
体力回復も必要よね

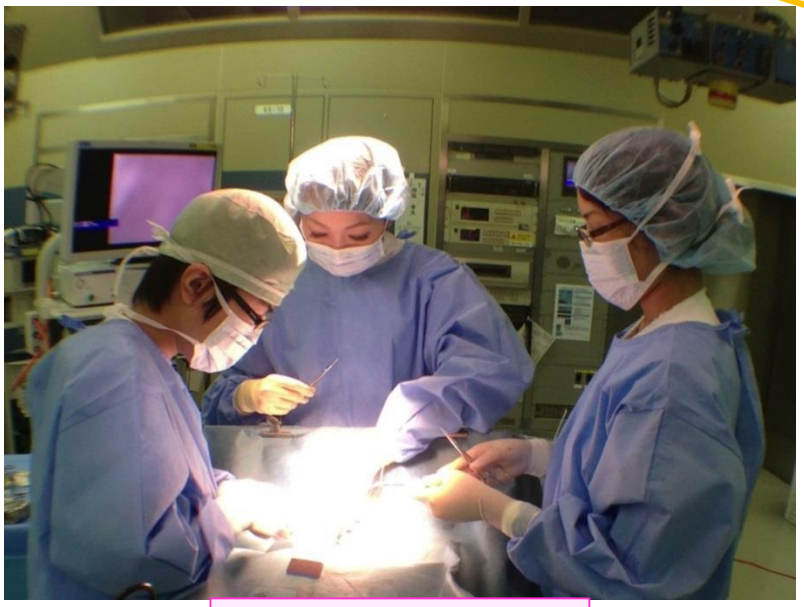
理解ある夫に
本当に感謝！！

- 2010 年　9月　東京大学　耳鼻咽喉科　特任臨床医
  - 8年目以降

英文論文初投稿

披裂軟骨内転術・甲状軟骨形成術（局麻）
輪状咽頭筋切除術（全麻）・**喉頭挙上術**
新生児舌根嚢胞手術
口　　ザー）
上部消

喉頭関連の手術は
自分の判断で執刀できるようになった・・・

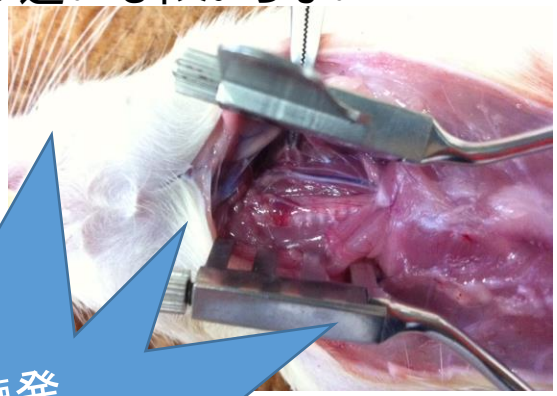


Ope室内全員女性

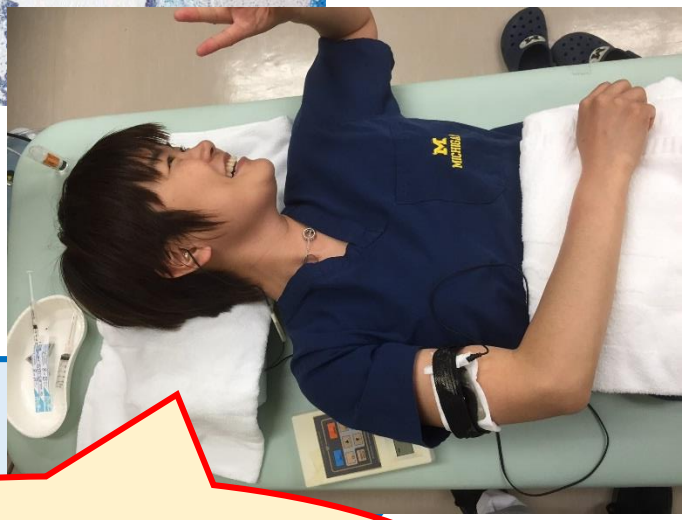
男性医師も一緒に

大学には，，，研究という悪夢も待っていた･･･

初めての動物実験
ラットとマウスの違いもわからない



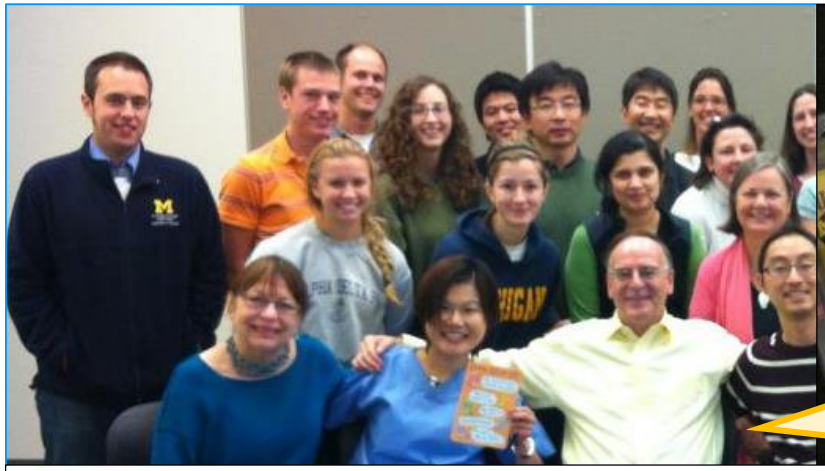
突発性難聴発症
耳鳴りに苦しむ
（笑っているが･･）



前に進むしかない！！

人を治す手伝いをするには，
医者のリフレッシュも大切だ！！

- **2012 年　5月　Visiting researcher**
  (Department of Pathology, University of Michigan)



十分リフレッシュできたので，
臨床も研究も頑張れる！！

UNIVERSITY OF MICHIGAN　東京大学

Viral Disruption of Olfactory Progenitors is Exacerbated in Allergic mice

R. Ueha MD[1,2], S. Mukherjee PhD[1], S. Ueha PhD[1,3],
K. Kondo MD, PhD[2], T. Yamasoba MD, PhD[2],
N.W. Lukacs PhD[1] and S.L. Kunkel PhD[1]

[1]Department of Pathology, University of Michigan
[2]Department of Otolaryngology, University of Tokyo
[3]Department of Molecular Preventive Medicine, University of Tokyo

UNIVERSITY OF MICHIGAN　東京大学

Acknowledgement

• This work was supported in part by NIH grant ooooo

Dept Patho Med, Univ Michigan

Denise E de Almeida Nagata
Judith Connett
Takehiko Shibata
Sihyug Jang
Matthew Scaller
William F Carson
Lisa Riggs
Ron Allen

Dept Otolayngo Med, Univ Tokyo

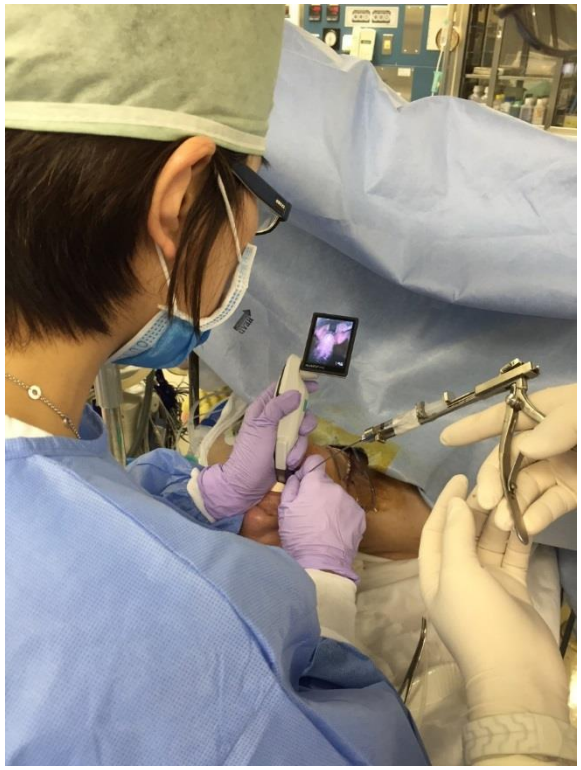
Takashi Sakamoto
Keigo Suzukawa
Shu Kikuta
Koich Tsunoda

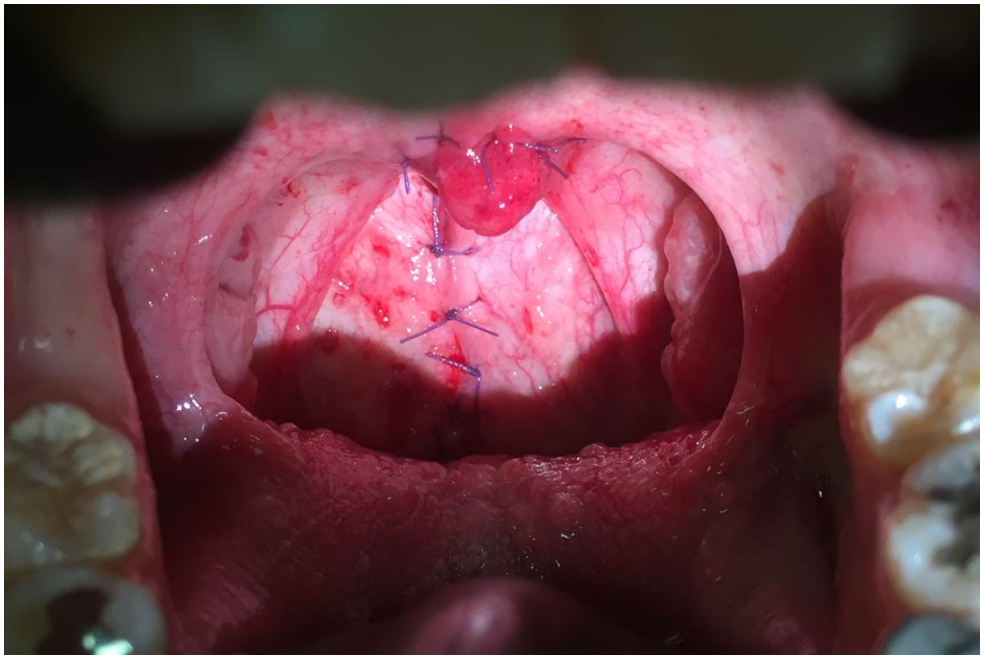
- 2012 年 12月　東京大学　耳鼻咽喉科　助教

指導医取得

  - 10年目以降

TOVS（舌根腫瘍：FK-WOリトラクター，咽頭喉頭粘膜下腫瘍，
輪状咽頭筋切除術，披裂軟骨切除術，Ejunell法　など）
声帯内注入術（マックグラス下，経皮的）
先天性喉頭奇形手術
咽頭弁形成術　　**など**





Transoral videolaryngoscopic surgery

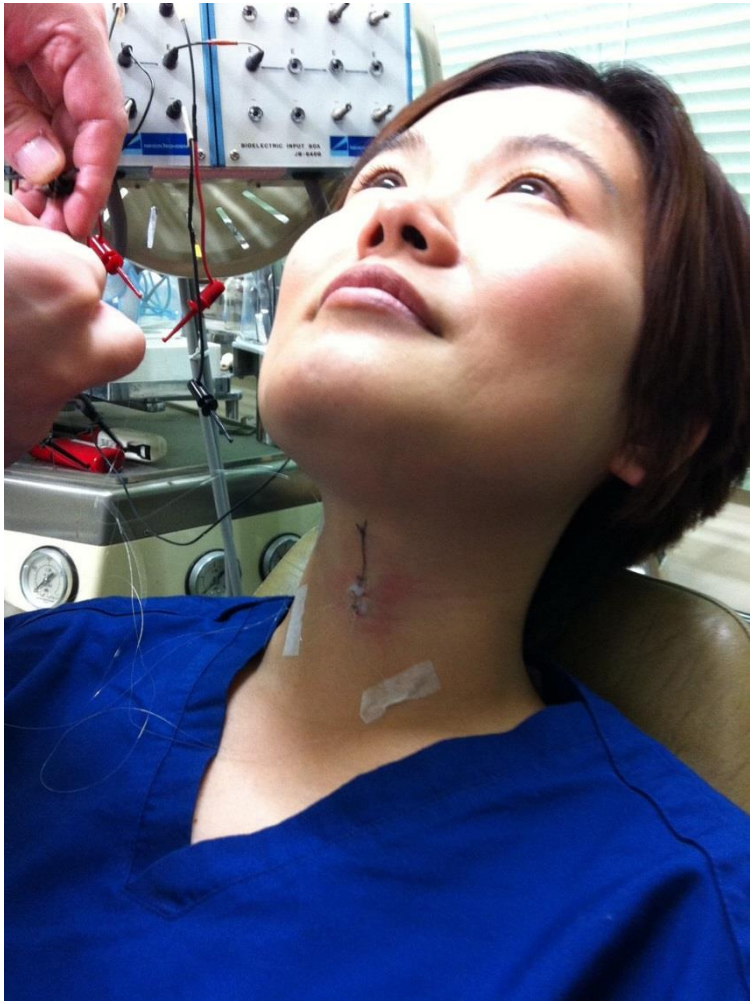
前に進む！！

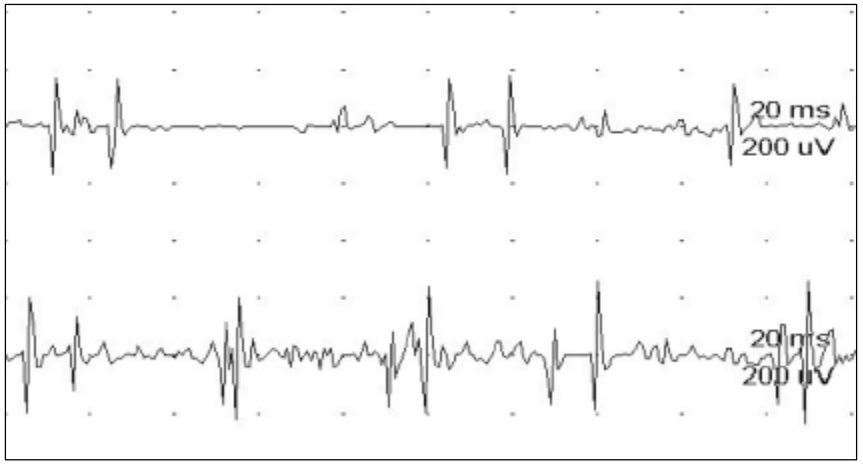
患者にあった治療法選択のためには，
患者それぞれの的確な評価を！！

臨床応用できる検査は，
できるだけ自ら実践し，
侵襲度を体感する！！

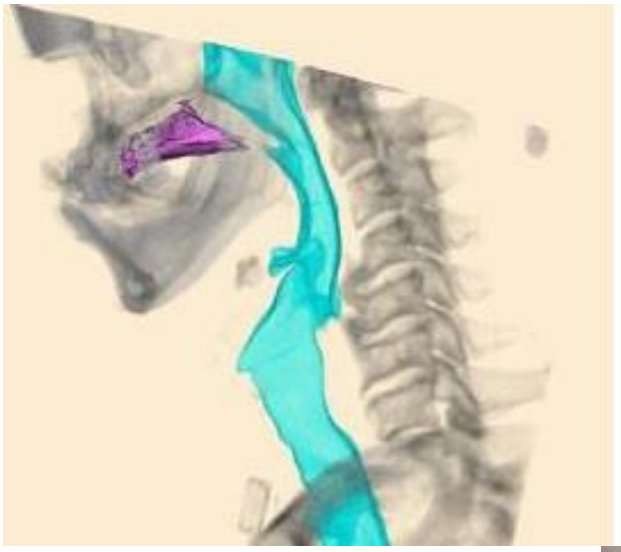
臨床応用につながりうる研究を
自分のペースで考えてみよう！！

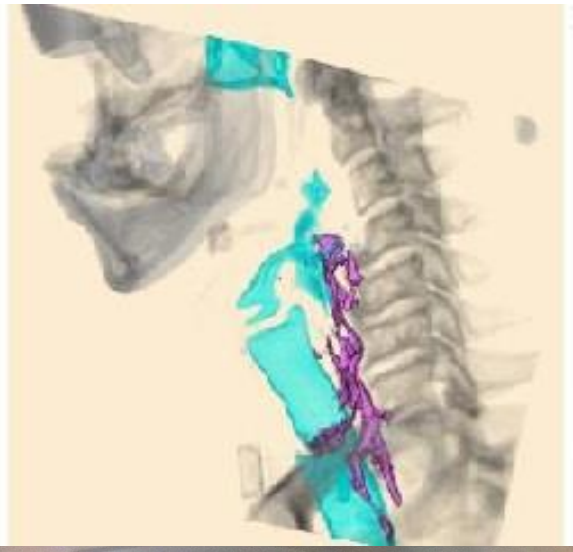
喉頭筋電図

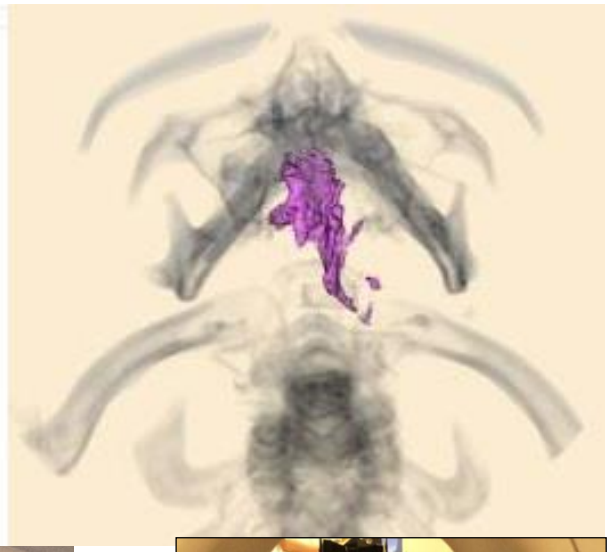


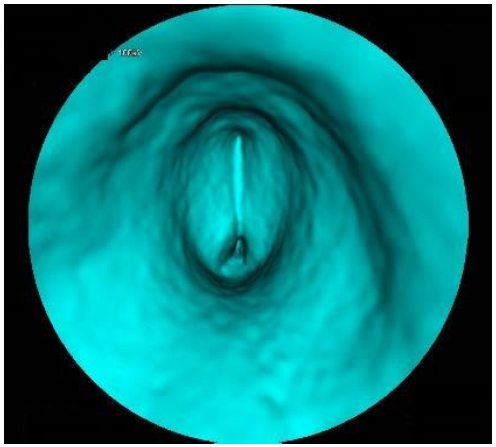


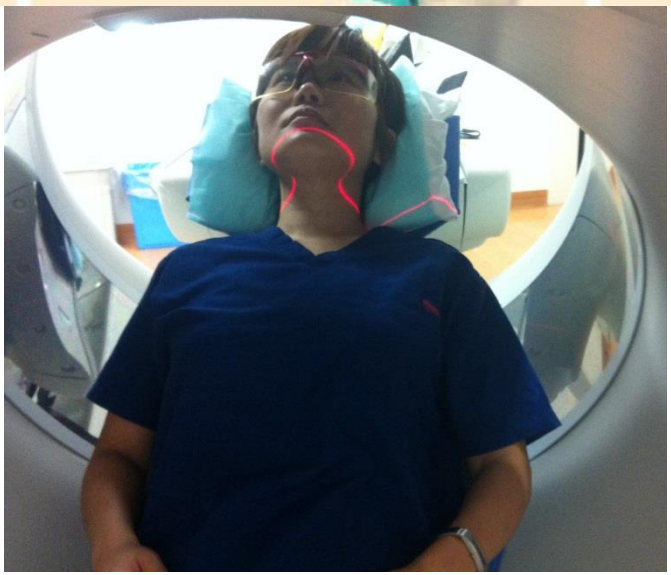
4次元　嚥下CT

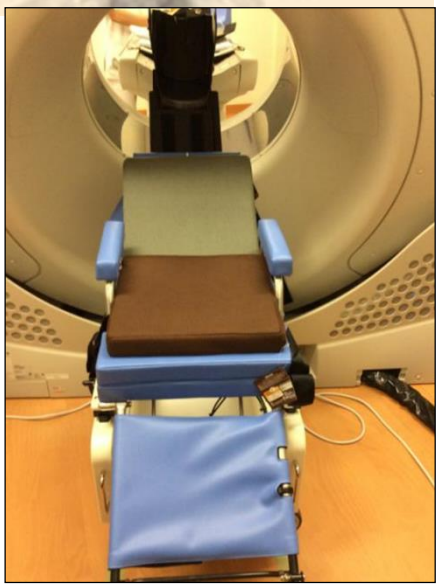




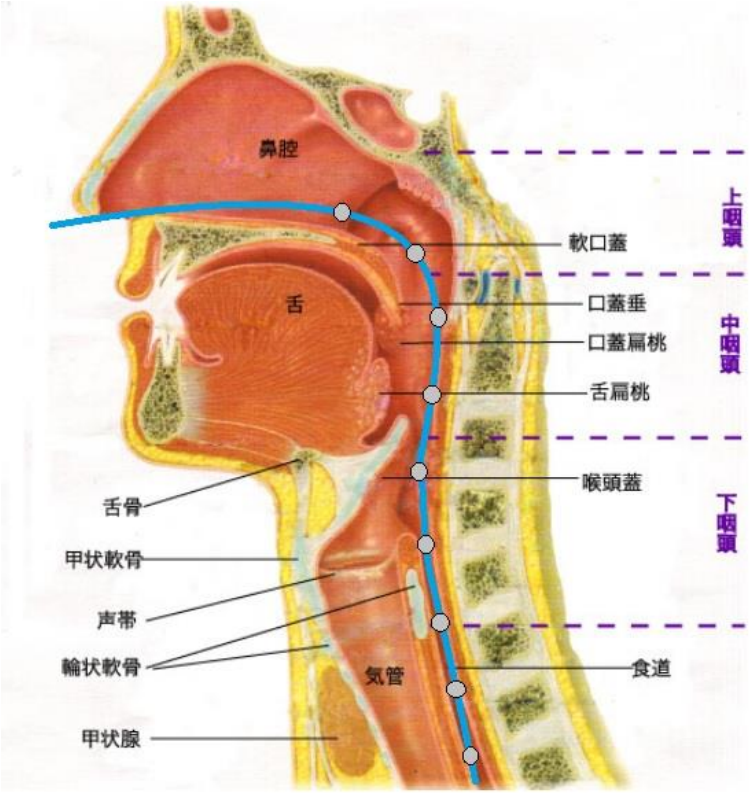


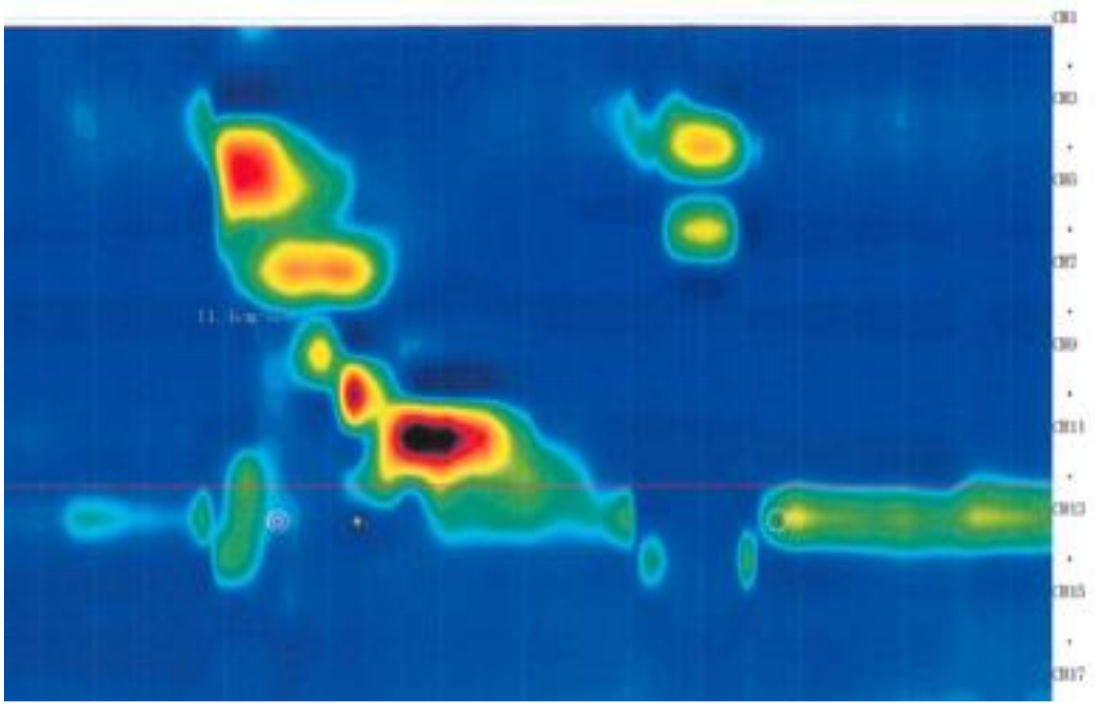




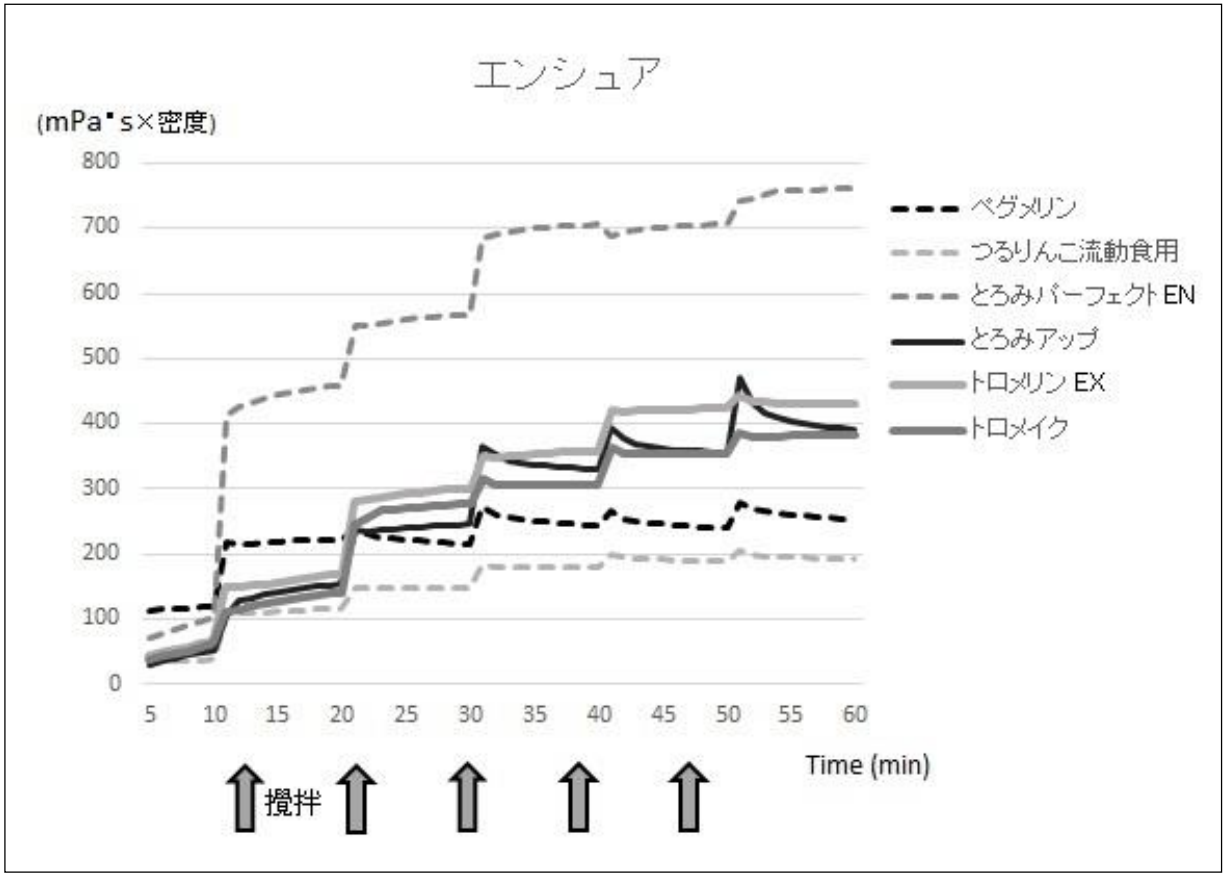


多チャンネル咽頭食道内圧計



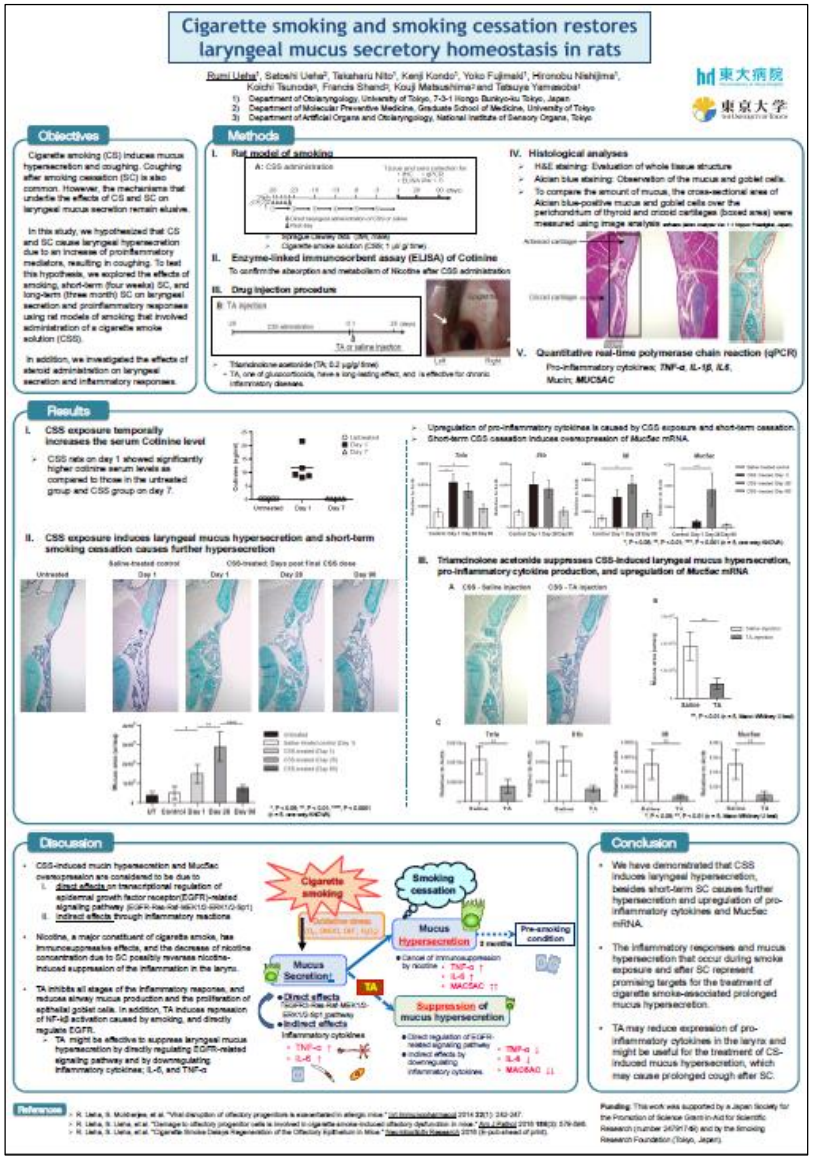


食品テクスチャーの検証

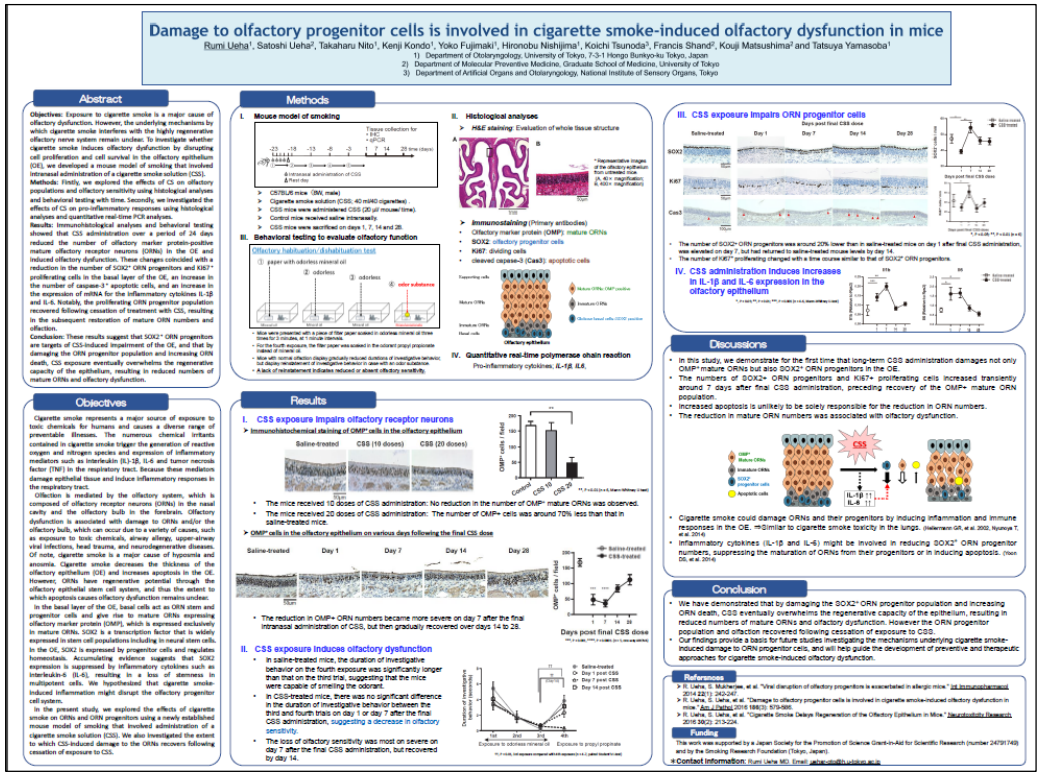


とろみ・ゼリーおたく

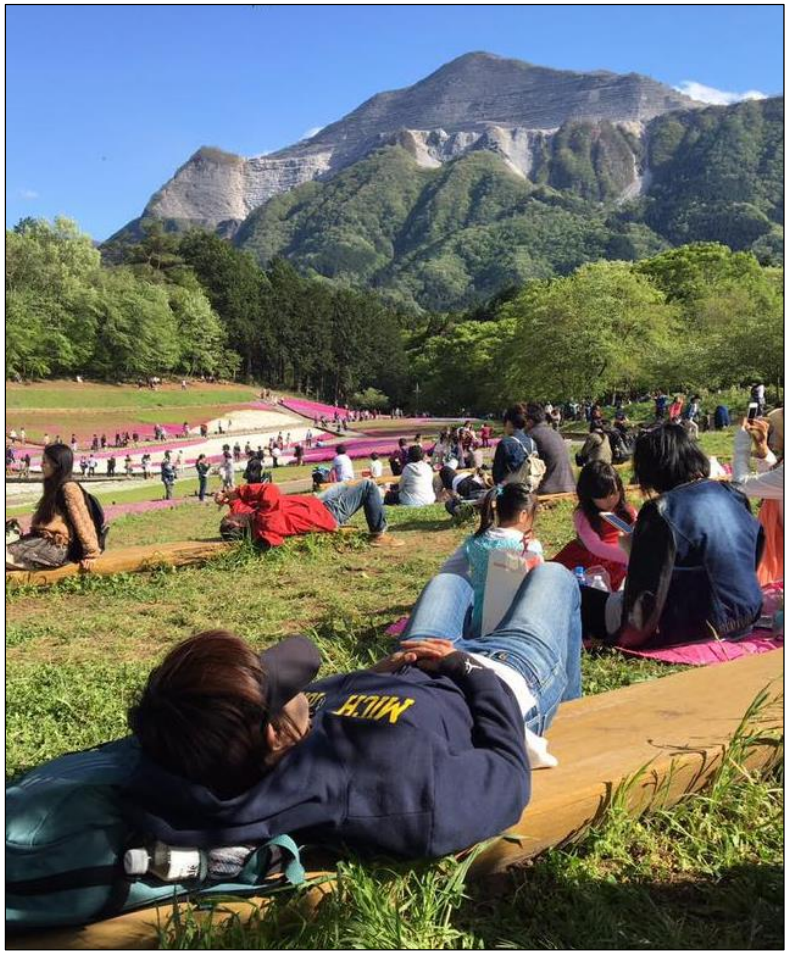
基礎研究



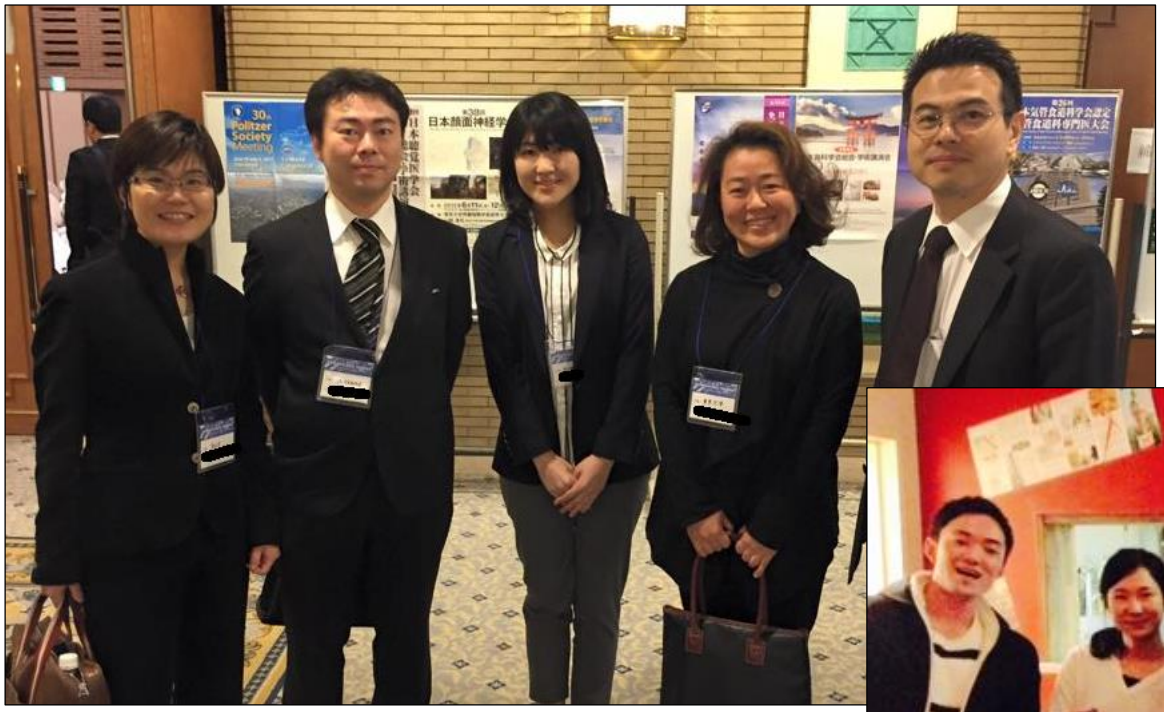
現在，喉頭領域と嗅覚の基礎研究進行中．
うまくいかないことばかりでも，楽しくやる．



家族とリフレッシュ



職場環境･仲間の協力！



医者は，人を治すのではない．

人を治す手伝いをするだけだ．

でも，サポートする医者にも，

気力と体力，休息が必要だ．

個人事情に応じた勤務環境への

理解・協力・感謝を

お互いに・・・

Take home message ??

- 「医師」として，患者さんに関わる時間を，人生を通して継続.
- 仕事へのアプローチはいろいろ．個人個人で多様であって当然.
- 悩み・もがき・相談し，「努力から楽しく」に変えられたらHappy.
- 気力・体力・リフレッシュ！ ！
- 自分がやってきたやり方・背中を，後輩に見せつつ，押し付けない.
- 現在に至るまで・・・我が人生に悔いなし・・・？？

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Acknowledgements

Dept of Otolaryngology, University of Tokyo

Tatsuya Yamasoba
Takaharu Nito
Yoko Fujimaki
Akihito Yamauchi
Takao Goto
Yuya Shimizu
Taku Sato